

## おやすむ

**考**えごとをして眠れない夜、私は布団にスマホを持ち込んで、SNSのおすすめに流れてくる「つぶやき」を眺めることが多い。知らない誰かの「つぶやき」を見ているとなぜだか心が落ち着いてくる。だんだんとまぶたが重くなってきたころ、ときどき見かけるのが「おやすむ」ということばだ。

「おやすむ」は、「また、あすね。おやすむ」「さて寝よう、おやすむ」など、一連の「つぶやき」の最後に使われることが多く、「おやすむzzz」のように、いびきや寝息の音を表す「zzz」や、ヒツジの絵文字が添えられることもある。寝る前のあいさつ「おやすみ」と似ているが、意味が違うのだろうか。

まず、あいさつの「おやすみ」は、「話しことば」としてもよく使われ、実際の会話では「そろそろ寝るね、おやすみ」「そうだね、おやすみ」のように、お互いに「おやすみ」と言うことも多い。日常生活の中で使うあいさつは、「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」「さようなら」などたくさんあるが、「おやすみ」は寝る前という状況のせい、家族や恋人、仲がいい友だちなど、親しい人との間で交わすことが特に多いように思う。

これに対して「おやすむ」は、もっぱらSNS上で使われていることばだ。こうした場では、くだけた話しことばのような文体がよく使われ、ことばの一部を省略したものやキーボードの打ち間違えが新語として流行することもあるが、「おやすむ」も、誰かが「おやすみ」を「おやすむ」と打ち間違えたものが若い世代ではやりつつあるのだろうか。

その可能性も捨てきれないが、やはり私は「おやすむ」には、「おやすみ」とは異なるニュアンスを感じる。あいさつというよりは、「休む(寝る)」という自分の行動を説明することば、いわば「もう寝ます」という宣言のように思えるのだ。知らない人も見る空間では、親しみを込めた「おやすみ」より、「もう寝ます」の「おやすむ」のほうが使いやすい気がする。

そういえば、話しことばでは「寝る」ことを「おやすみする」と言うこともあるが、少ない字数が好まれるSNS上で、この「おやすみする」が変化し「おやすむ」になったと考えるのはどうだろうか。

見かけると気になって逆に眠れなくなる「おやすむ」。なかなかやっかいな存在である。

中島沙織(なかじま さおり)